

タイトル 「うちのかつおに限って!？」

事件の概要

かつおとケンイチ、ケンイチの彼女であるチコの三人は、高校の同級生であり、共に事件当時23歳であった。ケンイチは高校のときからチコと交際していた。かつおとケンイチは、しばしば喧嘩をすることはあったが、よく一緒につるんで遊んでおり仲がよかった。しかし、1年前に酒の席で大喧嘩となりケンイチがかつおの鼻の骨を折った事件があった。それ以来かつおとケンイチの仲は陰悪であった。また、ケンイチは、そのころからチコがかつおとできているのではないかと疑いをもっていた。

ケンイチは、かつおを呼び出して話し合いをしようとしたが、かつおは仕事が忙しいなどと理由をつけて話し合いに応じようとしなかった。

業を煮やしたケンイチは、仕事を終えて自宅の駐車場に帰ってきたかつおと話し合いをするために、かつおの自宅駐車場付近で待っていたところ、かつおがレクサスに乗って帰ってきた。

ケンイチは、かつおがレクサスから降りたところに近づき、オレの彼女に手を出したな、楽しそうにドライブしていたのを見たと問うたところ、かつおは、知らない、お前の女に誰が手を出すかと答えた。そのため、ケンイチはふざけるなど頭に血が上ってかつおの胸倉をつかみ、何度もかつおの顔面を殴った。ケンイチは、息を切らして殴るのを止め、胸倉を離すと、かつおは「チコとは何もねえよ」と小声でぶつぶつぶやいた。ケンイチは、レクサスのドアをボコンと蹴り、「てめえまだ言うか。また鼻を折ってやろうか」と再びかつおに殴りかかった。

かつおは、ズボンの横ポケットから作業用ナイフを取り出し、ケンイチの腹部を切り付け加療約2週間の傷害を負わせた。

検察のストーリー

かつおは、以前酒の席で理不尽な暴行をうけて鼻の骨を折られ、チコとは何にもないのに理不尽にも殴られ、さらに、愛車のレクサスを蹴られて傷つけられたことで逆上し、ケンイチに反撃し積極的に傷つけてやろうと思い立ち、ケンイチをナイフで切りつけたものであり、かつおに正当防衛は成立しません。

被告人の主張

ケンイチは空手の有段者であり、このまま殴られ続けたら死んでしまうと思ったので、殴るのを止めさせるにはナイフを出すしかない思いナイフを出して振り回したところ、ケンイチが突っ込んできたため、ケンイチの腹を切りつけてしまいました。自分の身を守るために無我夢中でやったことです。

弁護人のストーリー

被告人の行為は、被害者による急迫不正の侵害に対して、自らの生命ないし身体を防衛するため、やむを得ず行ったものです。被告人には、積極的にケンイチを傷つける意思などありませんので正当防衛が成立します。